

再 評 価 書

箇所名	林道 木屋村山線	事業名	林道事業	課 名	治山林道課										
事業概要	工 期 (下段前回)	平成15年～35年	全体事業費 (下段前回)	1,530百万円(負担率:国 50:県 50:他 0)											
		平成15年～29年		1,657百万円(負担率:国 50:県 50:他 0)											
事業目的及び内容															
<p>(1)所在地 度会郡南伊勢町村山地内の林道大紀南島線を起点とし、度会郡大紀町木屋地内の林道奥西河内線を終点としています。</p> <p>(2)事業の目的 戦後に一斉造林されたスギ・ヒノキの人工林と、薪炭林跡地(二次林)の森林を効率よく整備し、森林資源の活用促進を図るとともに、森林の持つ公益的機能の早期発揮を目的とします。 併せて、大紀町の木屋地区と南伊勢町の村山地区を結ぶ連絡道として、災害時の迂回路としての役割が期待されています。</p> <p>(3)全体計画 ①延長 : 9,214m ②幅員 : 4.0m ③事業費 : 1,530,000千円(166千円/m) ④事業期間: 平成15年度～平成35年度(21年間)</p> <p>(4)利用区域の森林資源等の状況 当該路線の利用区域面積は339ha、うちスギ・ヒノキ等の人工林が163haです。 人工林の100%が11～60年生の間伐対象森林です。 また、森林の所有形態は、町有林や区有林がほとんどを占めています。</p>															
事業主体の再評価結果															
<p>1 再評価を行った理由 平成25年度に再評価を実施後、一定期間(5年)が経過し、事業継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき再評価を行いました。</p>															
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>(1)事業着手 平成15年度全体計画調査実施、翌年度に木屋側と村山側の2工区で着工。</p> <p>(2)進捗状況(平成29年度末の事業量) ①完成延長 : 5,497m(進捗率:59.7%) ②事業費 : 1,226,137千円</p> <p>(3)課題 県予算の推移が当初想定したものよりも縮小したことから進捗に遅れが生じたため、事業期間を延ばさざるを得ず、完成が平成35年度となります。</p> <p>(4)利用区域内の森林整備状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">期 間</th> <th colspan="2">H 30 調 査 時 点</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>整備面積</th> <th>うち間伐</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25～29</td> <td style="text-align: center;">17 ha</td> <td style="text-align: center;">8 ha</td> <td style="text-align: center;">主伐 3ha</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5)その他利用区域内の状況 開設が完了した区間については、作業道が開設され間伐等の森林整備に利用されています。</p>						期 間	H 30 調 査 時 点		備 考	整備面積	うち間伐	H25～29	17 ha	8 ha	主伐 3ha
期 間	H 30 調 査 時 点		備 考												
	整備面積	うち間伐													
H25～29	17 ha	8 ha	主伐 3ha												

3 事業を巡る社会経済状況等の変化

(1) 周辺環境の変化

- ① 戦後に一斉造林されたスギ・ヒノキ等の森林資源は成熟期を迎えつつあり、木材資源としての重要性が増しつつあります。また、利用方法も柱や梁といった従来の構造材から、大型合板工場向けの木材やバイオマス燃料材としてなど、多種多様な使われ方が行われるようになってきました。
- ② 林業作業についてはプロセッサやグラブプル、フォワーダーなどの高性能機械が普及しつつあり、機械作業による造材や集材の効率化が進んでいます。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回再評価時の費用対効果分析の結果

【前回評価時】(H25年時)	
B(便益)	3,693 百万円
C(費用)	1,802 百万円
B/C	2.05

② 費用対効果分析の結果

費用便益比(B/C)

B/C	B(便益)	C(費用)
1.40	総便益(B)	2,979 百万円
	事業費(C)	2,131 百万円
	・木材生産便益	737 百万円
	・林道事業費	1,826 百万円
	・森林整備経費縮減便益	1,403 百万円
	・造林事業費	300 百万円
・災害等軽減便益	756 百万円	
・維持管理費	4 百万円	
・維持管理費縮減便益	11 百万円	
・その他の便益	72 百万円	

③ 感度分析の結果

感度分析の結果(±10%)は、B/C=1.24となっています。

4-2 その他の効果

特にありません。

4-3 地元意向

(1) 大紀町・南伊勢町・受益者

当該林道は木材生産コストの削減と地域間交流に必要不可欠であるとともに、大紀町の木屋地区と南伊勢町の村山地区を結ぶ連絡道としての役割もあることから、事業の継続を望んでいます。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

- ① 地形にあった波形線形の採用や、路肩の縮減により、土工量及び法面保護工を削減しコスト縮減を図ります。

5-2 代替案

当路線の利用区域内の森林整備を図るとともに、切り出した木材を効率よく運搬する必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はありません。

再評価の経緯

《平成25年委員会意見》

事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承するとともに、事業効果の早期発現のため、早期の事業完成に努められたい。

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、一層のコスト縮減を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図り、計画的な予算配備に努めながら早期完成を目指し、事業を継続いたしたい。